

1

有害紫外線のヒトへの影響

オゾン層破壊による有害紫外線の増加は、人間の細胞を傷つけ、目や皮膚の病気を引き起こすほか、免疫力を低下させます。

①皮膚がんの増加

太陽の光に含まれている紫外線B波は私たちにとって有害で、皮膚の細胞の遺伝子を傷つけてしまいます。

普通は細胞内の酵素こうそのはたらきによって、傷は修復しゅうふくされますが、それを何度もくり返していると、まちがって修復され、そのことが原因で将来、皮膚がんになってしまうことがあります。

オゾン層破壊が進むと紫外線B波の量が増えるので、特に白人やメラニン色素しきそが少ない人は気をつける必要があります。



②目に対する影響

ゴーグルやサングラスをつけずにスキーや登山とざんなどをすると、目がチカチカしたり充血じゅうけつしたりすることがあります。これは強い紫外線が目に入るために起こっているのです。このように紫外線は目にも悪影響を与えます。

白内障という目の病気は、長いあいだ強い紫外線が目に入ることによって起こる病気です。お年寄りとしよりに多くみられます。

③免疫力の低下

私たちのからだには感染症かんせんしょうなどから守ってくれる「免疫」というはたらきがあります。紫外線B波を浴びると免疫力が弱められてしまい、かぜなどの感染症にかかりやすくなったり、また皮膚がんにもなりやすいのです。

夏に海やプールでたくさん日ざしを浴びた後は免疫力が落ちている状態にあります。

